**令和５年度　第２回北杜市在宅医療・介護連携推進会議　議事録**

開催日時　令和６年３月２５日（火）　１９時００分～２０時３０分

開催場所　高根総合支所　２階大会議室

出席委員　１０名（欠席者：２名　三井梓委員、稲垣才子委員）

　　　　　飯塚秀彦委員、堀内敏光委員、清水百合子委員、塚越暁美委員、酒井圭介委員、清水毅委員、浅川成彦委員、津金永二委員

【事務局：清水福祉保健部長・向井介護支援課長・輿水保健指導監・藤原介護保険担当リーダー・篠原介護予防担当リーダー・小泉保健師・丸田社会福祉士・佐藤社会福祉士・武川社会福祉士】

傍聴人　　２名

１　開　　会

２　会長あいさつ

３　議事録署名人選出

議事録署名人　堀内敏光委員、清水百合子委員

４　議事事項

1. 令和５年度北杜市在宅医療・介護連携推進事業実施報告について

（事務局より資料１～３の説明）

　　　・高校生向け介護の出前講座・介護の魅力発信報告

（事業実施委員から概要説明）

委員：北杜高校の福祉ライフデザイン系列では３年生の１年間学ぶことによって介護職員の初任者研修を取得することができる。そのなかで行う実習というのはほとんど見学研修がメインで、とても高齢者福祉の実態は伝わらない。利用者様と関わり、話を聞いてアクションをおこさないと身につかないということで、北杜市と連携して、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の理解を深め、アセスメント方法を学んでから、実習という形で直接事業所で利用者と触れ合ってもらうプログラムとした。そういった直接触れ合う機会を２回ほど持ちながらアセスメントを深め、その利用者様にあったレクリエーションのプランを作成してもらった。さらに、そのプランに基づいて実際にレクリエーションを提供してもらい、その結果について発表してもらったものである（高校生が作成したパワーポイント資料を映写して説明）。

明山荘小規模多機能型居宅介護事業所では、こうした活きた実習を北杜市と連携しながら実施しており、３年間で数は少ないが、実際に介護事業所に入職してもらうという取組をしている。また、地域密着型の取り組みとして、主婦層の方で時間の取れる方や不登校の学生をボランティア的に受入れ事業展開している。

＜質疑応答・意見＞

会長：以前の会議に比べると取組が具体的になり、実績も出てきたように思う。委員からの報

告も、介護人材の確保と不登校の生徒が介護に関心を持てているというのは素晴らしい

と思う。何か意見があればお願いしたい。

委員：人材不足はケアマネばかりではないと思う。県の第８次医療計画と地域包括ケアの推進

のやまなしプランも間もなくできあがってくると思うが、市町村がどうするかというの

が一番重要なポイントとして出てきている。甲府は甲府、北杜は北杜の中で決めていか

なければならないので、特色ある事業展開ができればよいと思う。これだけでも大変だ

が、ぜひよろしくお願いしたい。

委員：交流会で、うちのスタッフも参加するようにし、訪問看護事業所に戻ってから伝達講習

をすることによって成果が出てきているように思う。ヘルパーと看護師との間に壁があ

ったが、最近はヘルパーから直接連絡をくれるようになったり、看護の方もいろいろな

ところに情報提供していく中でかなり効果が出ているなと感じている。

委員：興味があり、全国の自治体の取組をよくみているのだが、福祉、医療、介護に特化して

発信している首長というのはあまりおらず、安芸高田市の市長さんが戦っている例くら

いである。先ほどの委員からもご指摘があったように、自治体が掲げた目標やキャッチ

コピーを実現するために、市がどのようなまちにしていくのかをもう少し首長発信で、

できるとよい。なぜかというと、全国的にそういう首長がいないので、発信するとまず

目立つ。それにより、関係人口を増やしていくことによって、住民ではない人が北杜市

に関心を持って、いずれは北杜市に移住してくれるのような流れができるとよいのでは

ないか。介護人材の不足等の課題解決のためには、やはり発信がすごく重要である。こ

の委員会で取り組めるかはわからないが、首長にも関心を持ってもらうべきだと思う。

委員：確かに発信はすごく大事である。高校生向けに出前講座をやり、かなり感触が良くなっ

てきたが、保護者の感触はまだまだである。メディア等を使いながら、保護者にも福祉

の仕事を知ってもらいたい。まだ暗い、きつい、大変だというネガティブなイメージを

持っている保護者は多いので、親の価値観を変えていく努力が必要だと感じている。

委員：去年までは県と甲府市の連携中枢都市との違いがよくわからなかったが、甲府市連携中

枢は普及啓発、研修に重点を置いている。県としては、在宅医療の医療提供体制に力を

入れていきたいと考えている。北杜市は在宅医療を行っている診療所が少ないという特

徴はあるが、２つの市立病院を中心にして、気兼ねなく在宅医療を行える提供体制がよ

いのでないか。

会長：確かに在宅医療をやっていると、急に具体が悪くなったときにバックアップしてくれる病院が大事である。また、介護や高校生の体験などの取組により改善されて、そのことで人口増加につながると思うので、発信は今後もよろしくお願いしたい。介護や在宅医療は辛いことばかりでなく楽しいこともあるので安心してこの業界にきてほしい。

委員：看護師の立場から見ると、４月から医師の働き方改革が大きな問題になってくる。先生

方が今まで頑張ってくれるので助かってきたが、これからは先生を支える役割も大事に

なり、訪問看護ステーションはますます頑張らなければならないと思っている。特定医

療行為ができる看護師も着々と育ってきており、また看護師がやってきたことのうち、

介護福祉士が吸引などの処置できるようにも移行してきている。介護福祉士になりたか

ったが、経済的理由で進学ができず、直接介護施設に就職したケースもあるので、そう

いった若者に経済的な支援をしていただけたらと思う。若くて健康な子供たちが介護の

道を目指したいと思ったときに、経済的理由で断念するのはもったいない。私たちも自

分たちでできることを考えていきたい。

委員：北杜市の方で資格取得に向けた助成金制度がある。明山荘でも２名使った人がいる。北

杜市は助成金制度があることをもっと発信した方がよい。

事務局：資格助成は令和３年度から始まっている。令和３年度は実務者研修が５件、初任者研修

は1件の実績がある。令和４年度は全体で９件の実績があり、実務者研修が６件、初任

者研修が１件、介護福祉士試験が２件であった。令和５年度はこれまで５件実績があり、

実務者研修が３件、初任者研修が２件となっている。

委員：何かしらもっとアピールした方がよいと思う。使える制度は使いながら、困窮世帯の方

でも資格を取れるということは十分アピールしていくべきである。

会長：先ほど委員がいっていたのは進学をあきらめということだと思うが。

委員：子供たち自身が魅力を感じているのに、親が反対するケースもある。給料などはすぐに

改善できない面もあるが、男性のヘルパーさんはとても大切な存在である。男性が家庭

を持って生活するにはなかなか厳しいところもあるのではないか。

委員：そんなことはない。辛いイメージを全面的に出すメディアの影響は大きい。

委員：魅力を発信していくことが大事だと思う。

委員：さきほどの施策・取組のご説明を聞くと、たくさんの事業があるが、文字だけでなく、

ここのところ、事務局の方や部会の方が交流会をとおして一生懸命浸透させようと実務

レベルで熱意が伝わってきている。勉強会や想いのマップなどは皆さん見てますし、HP

で広域連携会議や中北の連携なども少しずつ浸透してきているなというのが私の感想である。また、取組方針２の人材の話が出たが、春から夏にかけて県内の高校、短大、専門学校を回った。北杜市の介護については若者はそれほど悲観的ではなかった。ハローワークのガイダンスに若者は誰も来ないのではないかと思っていたが、意外にも一日に１５～２０人くらい話を聞きたいとやってくる。先ほどの明山荘の素晴らしい取組も参考にしながら、我々も取り組んでいきたい。あと、私からのお願いだが、医療と介護の連携の場面の３と４、急変時と看取りの場面で携わらせていただいているが、医師の先生や看護師さんと連携をさらにとれていけたらいいと思っている。

1. 令和５年度北杜市在宅医療・介護連携推進事業作業部会活動について

「皆でつくろう！北杜の未来」THE医療介護交流会の様子

（作業部会長である委員から資料４の説明）

委員：コロナが５類になり、まずはイベントをやろうということで、９月３日に実施した。顔

の見える関係づくりは、まずは関係者に来ていただくことが大事である。午前中のブー

スコーナーで事業者紹介を書いていただき、にぎやかに交流できて好評だったと思う。

また、介護と医療のそれぞれの立場からご意見いただきながらシンポジウムを行った。

その後、在宅医療介護の実体験に基づく落語の公演もさせていただいた。現在、今年の

企画を進めており、来年度は７月２１日に実施する予定で内容を詰めているところであ

る。少し内容を変え、ACP（人生会議）についてデイサービスやヘルパーさんにもご意

見を聞きながらシンポジウムができたらと企画している。このイベントはお金も多少は

かかるが、継続的に実施することに意義があると思う。また、もう一つ、作業部会の方

で顔の見える関係づくりのためのWeb連携リレーを実施予定。座談会方式で１時間程度

のWeb配信しながら、３事業所ぐらいがいろんな話を交えながら事業所や職種などを紹

介するものである。４回程度配信予定である。こういった企画を通して、できるだけ多

くの方に関わってもらい、交流を深めてもらいたい。

＜質疑応答・意見＞

会長：交流会は大盛況でよかったと思う。ぜひ継続してほしい。

委員：社協の委員さんがきているので相談だが、相談コーナーに社協のブースを作ってもらう

ことは可能か。社協の成年後見制度や仕事の内容など市民はあまり知らないと思ので、

ぜひ検討してほしい。

委員：昨年度はいろんなところを回って出展協力を行ったが、ぜひ社協のブースにも出展いた

だきたい。

委員：昨年も同様のお話を伺った。地域支援事業、生活支援事業など関連する事業があるので、

社協として持ち帰って前向きに検討したい。

委員：社協ではいま地域づくりのボランティアもやっていると思う。ぜひそういう方にも声を

かけてお手伝いしていただけると、ボランティアの活躍の場にもなり良いと思う。ぜひ

検討してほしい。

委員：北杜市にはチームオレンジはあるか？

事務局：チームオレンジはできている。月見草という団体に活動していただいている。今まで地道に地域で活動してきていただいたが、チームオレンジという形で正式に活動してもらっている。

委員：ぜひそういうことも発信していただく良いと思う。

事務局：今年度の交流会でもパネルをご用意いただいた。また所長さんとも相談しながら啓発活動を進めていきたい。

1. その他

なし

５　閉　　会

以上